

「第 26 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」結果概要について

平成 27 年 10 月 12 日に開催した「第 26 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」の内容は次のとおりでした。

| | |
|------|---|
| 名 称 | 第 26 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム おしえて・話して！かながわの森と水 |
| 出席者 | 主催者あいさつ、講師 浅枝 隆 県民フォーラムチーム 北村 多津一、倉橋 満知子、坂井 マスミ、中門 吉松、西 寿子、 前田 裕司、森本 正信 コミュニケーションチーム 滝澤 洋子、増田 清美 (上記以外) 篠本 幸彦 |
| 開催日時 | 平成 27 年 10 月 12 日 (月・祝) 13:30～16:15 |
| 開催場所 | 厚木市商工会議所 大会議室 (厚木市栄町 1-16-15) |
| 内 容 | <p>1 開催趣旨 水源環境保全・再生に係るこれまでの取組についての情報提供・発信等を行うとともに、「第 3 期かながわ水源環境保全・再生実行 5 か年計画 (骨子案)」について、県民の意見を幅広く収集することを目的に実施した。</p> <p>2 開催内容</p> <p>(1) 主催者あいさつ (5 分) 水源環境保全・再生かながわ県民会議 浅枝 隆 副座長</p> <p>(2) ミニ講演 (講演 20 分×3 名、質疑応答 15 分) ①「かながわの水環境」浅枝 隆 氏 (埼玉大学大学院理工学研究科教授) ②「ワイルドライフレンジャーの取組み」片瀬 英高 氏 (ワイルドライフレンジャー) ③「水源の森林整備」杉本 貴広 氏 ((有)杉本林業)</p> <p>(3) 水源環境保全・再生施策及び骨子案の説明、質疑応答 (施策説明 40 分、質疑応答 30 分)</p> <p>3 参加者数 78 名 ※アンケート回収数 39 枚</p> <p>4 質疑応答</p> <p>(1) ミニ講演に係る主な質疑応答</p> <p>(Q1) 県では林道から 200m 以内を間伐することを奨励しているが、森林整備をやっていくうえで、あと 10 年しか補助金が出ない。林業者として山の整備をされていて不安はないでしょうか。</p> <p>(A1) はっきり言って不安はある。補助金制度があっても我々が頑張っても追いつかないところもある。林道から 200m 以内だけが山ではないので、その先を見据えてやっていかなければならないといった思いもある。その先の展開を考えてやっていかなければならないと思っている。(杉本 貴広 氏)</p> <p>(Q2) 提言として、里地里山を管理することは大切である。昔のように山に木こりがいらなくなってしまう、山が荒れ放題である。里地里山の管理だけでは手に負えなくなっている、その少し先の奥山の管理をしていかないと、山全体が駄目になってしまう。これは国行政レベルで里地里山の管理をリードさせていかないと、我々の飲み水がなくなってしまう。河川においては、最近では護岸工事としてコンクリートを打ってしまっ</p> |

いる。そうすると、水生生物の寝床がなくなってしまうので、その辺のバランスをとって管理していくことが課題ではないかと思う。

(Q3) シカは駆除され、カモシカは駆除されないのか違いを教えてください。

(A3) シカが問題になるのは、カモシカは基本的に縄張り性で1K㎡当たりいたとしても親子とかの2頭であるが、シカは50頭とか、もっと多いところも全国にある。群れになることによって、山の植生とか林業の苗木を食べてしまったりするので、カモシカよりインパクトが大きい。そのためにまずはシカを減らそうということである。カモシカは特別天然記念物でもあり、日本固有の種ということで捕獲には国（文化庁）の許可が必要になる。（片瀬 英高 氏）

(2) 骨子案に係る主な質疑応答

(Q1) 私は一昨年まで神奈川県で県木連の会長をしていた。県森林審議会にも6年在籍したので、山には非常に関心を持っている。山は持っても資産価値はなく、管理が大変である。この現状に行政が手を差し伸べてくれたということで、私たちは喜んでいる。大径木の処理はどのように行っていくのか。今後どのような森林管理を行っていくのか。
(厚木市・男性)

(A1) 県では、林道から200mの範囲内では木材をできるだけ搬出・利用することとしている。大きい木に関しては、合板に加工して住宅の建材として利用している。200m以上のところに関しては搬出が難しく、県として、広葉樹と針葉樹が混じる混交林になるよう整備し、手のかからないような状態にして所有者にお返ししていく。この取組みは今後も継続していく。（斎藤企画担当課長）

(Q2) 神奈川県民の約6割は相模川水系の水を飲んでいる。相模川水系の約8割が山梨県であるということは、神奈川県民の水源は山梨。相模川水系の上流域に水源税は、驚くことに0.9%しか充てられていない。相模川水系上流域対策の推進について、もっと水源税を充てて推進すべき。県外上流域対策をどのように位置付けるのか。
(桂川・相模川流域協議会 山梨県山中湖村・男性)

(A2) 県外上流域対策は、第1期は調査、第2期からは、山梨県と協議し、森林整備と桂川清流センターにおけるリン削減の取組みを実施している。基本的な考えとしては、山梨県の森林整備の追加的な部分、清流センターにおけるリン削減に係る装置の運転費用等に水源税を充当している。この取組みは継続していきたいと考えている。（市川水源環境保全課長）

5 開催効果

- ・ミニ講演として、3名の講師の方から、かながわの水環境、シカの管理捕獲や水源林整備について講演していただき、現場での取組みを情報提供することができた。
- ・水源施策及び第3期実行5か年計画骨子案の内容について情報提供を行い、参加者から骨子案の内容に関して質問・要望が寄せられた。

6 主催者

水源環境保全・再生かながわ県民会議

- ・県民会議委員9名が受付や案内などの会場運営及び司会進行を担当した。

次頁に当日の様子（写真）を掲載



県民会議 浅枝副座長 主催者あいさつ



浅枝氏 講演



片瀬氏 講演



杉本氏 講演



水源施策・骨子案説明 斎藤企画担当課長



質疑応答



会場全体



ホワイエでのパネル展示・受付・資料配架